

## 『博士論文要録』執筆の手引き

### 1 はじめに

「博士論文要録」（以下、要録と略す）は、分析化学及びその関連分野に関する博士論文の要旨を簡潔にまとめたもので、その学位取得者自身により執筆されたものをいう。要録は、会員の推薦に基づき編集委員会の依頼により執筆される。なお、学位授与後2年以内のものを対象とする。

### 2 原稿の形式

2・1 原稿は次のものから成り、所定のテンプレートにて作成する。

i) 表紙 ii) 本文 iii) 英文要旨 iv) キーワード

2・2 原稿は「ぶんせき」誌「博士論文要録」担当編集委員と事務局（2bunseki@jsac.or.jp）あてにメール送付する。

2・3 表紙（テンプレート1ページ目）には、題名、著者名、学位授与機関名、学位授与日付、現連絡先の機関、同所在地を明記する。

2・4 本文は、博士論文の各章ごとの内容を、見出しのもとにそれぞれまとめてもよいが、論文全体を通しての目的や結論が明確に読者に理解されるように執筆する。

2・5 本文の長さは、公表論文及び引用文献のリストを含み、原則として刷り上がり2ページ（本文4000字以内、英文要旨200語程度）とするが、「ぶんせき」誌編集委員会で認められた場合には、最大4ページまで増やせるものとする。

2・6 図表は、原則として使用しない。 やむを得ず必要な場合には、「分析化学」投稿の手引きの3項に従って作成する。この場合、全体で刷り上がり2ページとなるように図表の大きさに注意すること。なお、学術雑誌等に発表済みである場合には、掲載許可を得ておくこと。

2・7 博士論文の内容に関し、印刷物として公表されたものについては、本文の末尾に「公表論文」としてまとめる。公表論文には算用数字でそれぞれ番号を付す。「公表論文」中には、学会要旨、総説や解説などは含めない。また、印刷中のものは含めてもよいが、投稿中あるいは投稿予定のものは含めない。

2・8 その他の引用文献は必要最小限とし、「公表論文」の後に別に「引用文献」としてまとめる。文献番号はローマ数字で書き、本文中でもローマ数字を用いて引用する。

2・9 2・7、2・8における文献の記載方法は、「ぶんせき」執筆要領 3. 文献に従う。

2・10 数語の英文キーワードを選び、原稿の末尾に付す。

2・11 英文要旨の構成は以下のとおりとする。なお、半角で印字する。

- ① 題名
- ② 著者名（名を先にし、姓は全部大文字で記入）
- ③ 学位授与機関名
- ④ 学位授与日付
- ⑤ 連絡先の機関
- ⑥ 同所在地
- ⑦ 本文（200語程度、改行しない）
- ⑧ 数語の英文キーワード

2・12 別刷は、50部（50部単位で作製）以上を購入されたい（「ぶんせき」執筆要領の[別刷り]参照）。

2・13 その他の執筆要領は、「ぶんせき」執筆要領に従う。